

2018 年 12 月 吉日

日本脳神経外科学会 研修プログラム参加施設

日本脳卒中学会 認定研修教育病院

日本神経学会 教育施設・准教育施設

病院長殿・脳神経外科科長殿・脳卒中診療科科長殿

「脳卒中の医療体制の整備のための研究」

研究代表者

九州大学大学院医学研究院

脳神経外科教授 飯原 弘二

2018 年度 レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査へのご協力のお願い

拝啓

時下、先生におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2010 年度より開始致しました J-ASPECT Study (厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業、以後厚労科研) におきましては、平素よりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この間、2010-2012 年度には「包括的脳卒中センターの整備に向けた脳卒中の救急医療に関する研究」とし、2013-2015 年度には「脳卒中急性期医療の地域格差の可視化と縮小に関する研究」として、研究を続けて参りました。また、J-ASPECT Study と共同で 2013 年度に実施した「日本の脳神経外科医療の可視化に関する研究、脳神経外科治療全数調査」では「第 34 回日本脳神経外科コンgres 総会」にて特別企画「医療におけるビッグデータの活用」と題して結果報告を行いました。2016 年度からは厚労科研「脳卒中の医療体制の整備のための研究」として研究を継続しております。

本研究班の基幹事業である「レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査」では、過去 7 年間に本邦最大の急性期脳卒中データベース（延べ 706 施設、脳卒中症例の DPC データは約 70 万件）を構築しています。お陰様で、本年度に日本循環器学会と日本脳卒中学会との共同作業として策定されました「脳卒中・循環器病克服 5 ヶ年計画」の中で、「登録事業の推進」の章で本事業がとりあげられ、日本脳卒中学会研修教育病院における研究参加への努力義務化が明記されました。

当研究班は、2010 年度に実施した「脳卒中診療施設調査」により、本邦の包括的脳卒中センターの整備の現状について貴重な情報を得て、「脳卒中診療医の勤務状況と疲労度調査」や 2011-2017 年度の「レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査」と合わせまして、人的資源の地域間格差などの実態を踏まえた上で、脳卒中診療体制整備に向けた提言をするための分析を行っています。これまでに、診療施設調査の結果に基づき、本邦の脳卒中医療の現状に対応した、独自の「包括的脳卒中センタースコア」を提唱し、急性期脳卒中患者の死亡率が、最もスコアが高い施設群では、最も低い施設群に比較して、26%も低下することを初めて明らかにしました。また、本年度には、2014 年度以来 4 年ぶりに、3 回目の「脳卒中診療施設調査」を行い、脳卒中医療の提供体制の経時推移を検証中でございます。

さて今回、2011-2017 年度に引き続き、J-ASPECT Study の最も重要なプロジェクトであります 2018 年度「レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査」を企画致しました。DPC 調査参加病院様からは DPC 調査データを、DPC 調査未参加病院様からは電子レセプト情報をご提供いただきまして、

脳卒中及びそれに関連する傷病名および手術コードに基づいて対象症例を絞り込んだ全国規模の大規模データベースを構築します。本研究では、今回収集しましたデータを今後の脳卒中関連の研究に活用するだけでなく、医療施設、特に診療担当医の負担を抑えた方法で脳卒中症例データベース構築を継続して行うために、本研究で採用するデータベース構築手法を普遍性の観点や診療情報面から検証し、その過程から今後データ活用する上での制約や留意点などの知見を取りまとめる計画であります。

つきましては、貴施設におかれましては、是非とも、2018年度「レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査」にご参加していただきたく、お願い申し上げます。ご参加頂きました施設には、J-ASPECT Studyの研究班の一員として、各施設から診療科責任者一名のお名前を、論文のCollaboratorとしてご登録させていただく予定です。また、本研究班ホームページにID、パスワードを用いてログインして頂くと、診療施設調査結果概要や全国の脳卒中診療施設における貴施設の位置付けなどについて確認することが可能となり、将来の人的資源やインフラの整備にお役立て頂くことができるよう、研究成果と情報の共有を行っております。（2010・2014・2018年度の脳卒中診療施設調査、および2010～2017年度の脳卒中救急疫学調査の個別フィードバックグラフについては、研究班ホームページの「フィードバック」サイトよりご参照頂けます。）

なお、「日本の脳神経外科医療の可視化に関する研究、脳神経外科治療全数調査」のデータと連携し、より悉皆性の高いデータベースを作成する観点から、本年度の本調査においても調査対象症例を、2013年度の「日本の脳神経外科医療の可視化に関する研究」同様に、脳卒中および関連する脳神経外科治療の対象症例と致します。

ご協力いただきました貴重なデータにつきましては、厳格に保管管理致しますとともに、脳卒中および関連する脳神経外科治療に関連する疾患症例のみを抽出してデータベース化することにより全症例の取り込みは行わないこと、目的外使用をしないことをお約束申し上げます。

先生および貴施設の皆様におかれましては、ご多忙とは存じますが、本研究の脳卒中救急診療ならびに関連する脳神経外科診療におけます意義等をご斟酌いただきまして、是非ともご協力賜りたく、重ねてお願い申し上げます。本研究は、日本脳神経外科学会の学会協力研究事業、および日本脳卒中学会の学会協力研究に認定されております。

なお、ご協力の可否につきましては、同封の別紙1「レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査」2018年度参加意向登録方法に記載した方法でご登録いただきたくお願い申し上げます。

敬具

- 研究班のホームページをぜひご覧ください。（URL <https://j-aspect.jp>）

